



取扱説明書

携帯用発電機

IEG1601ME

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン



注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

IEG1601ME

X750-031 67 0

X750 805-460 0

はじめに

このたびは、新ダイワの携帯用発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱いができる人が行ってください。また、安全作業上で影響が出るような病気・薬服用・体調不良のときは、本機の使用を控えてください。
- 本機を使用した作業や本機の取扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、電気事業法、電気工事士法、消防法、騒音規制法等）およびその法律に基づく規則を遵守してください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。
- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。
- ご不明な点、お気づきの点がありましたらお求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問合せ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。
- 本機を廃棄されるときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

⚠ 警告：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

⚠ 注意：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。

<注意>：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『**⚠ 注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

目次

1. 安全上の注意	2
1.1 使用者の安全対策	2
1.2 交流電源の安全対策	3
1.3 整備時の安全対策	3
1.4 その他の安全対策	4
2. 仕様	5
3. 発電機について	6
3.1 各部の名称	6
3.2 コントロールパネル	7
3.3 装備	8
4. 運転前の点検	9
4.1 エンジンオイルの補給	9
4.2 燃料の補給	10
5. エンジンの始動	11
5.1 セル（電動）スターターによる始動	11
5.2 リコイルスターターによる始動	12
6. 発電機の使用	13
6.1 発電出力、過負荷異常、オイル異常ランプの表示について	13
6.2 交流出力の使用方法	14
7. エンジンの停止	15
8. 点検 ・ 整備	15
8.1 メンテナンスサイクル	16
8.2 オイル交換	17
8.3 エアクリーナーの清掃	18
8.4 スパークプラグの整備	19
8.5 ワイヤクロスの整備	20
8.6 燃料フィルターの整備	20
9. 長期保管	21
10. トラブルシューティング	22
11. 回路図	23

1. 安全上の注意

1.1 使用者の安全対策



警告：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



警告：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り・燃料フィルターの整備などを行うときは静電気を除去して、必ずエンジンを停止し絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料は、上限マーク（燃料タンク給油口燃料フィルター底面）以上給油しないでください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて運転しないでください。
- 本機をトラックなどで運搬するときは、燃料タンクから燃料を抜いてください。
- 抜いた燃料や予備の燃料は、消防法に適合した携行タンクで保管・運搬してください。
- 車両に積載して運転しないでください。



警告：けが

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたまま運転しないでください。



警告：爆発・火災

- バッテリーの着脱を行うときには、バッテリーコネクタを金属製の工具やケーブル端子などで短絡させないでください。



注意：排気ガス中毒

- 排気ガスを通行人や民家などに向けしないでください。



注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。



注意：火災

- 屋内配線に接続しないでください。（法令でも禁止されています。）
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。

⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

⚠ 注意：けが

- 本機をトラックなどで運搬するときは、ロープなどでしっかり固定し、本機が動かないようにしてください。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、交流出力スイッチを『OFF』にしてください。
- 回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
- 回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリ類のぶらつく物は身に付けないでください。
- 運転中に移動しないでください。

1.2 交流電源の安全対策

⚠ 警告

本機を電気装置や電源コードに接続する前に、以下を行ってください。

- すべてが正常に機能できる状態であることを確認してください。装置や電源コードの不具合は感電につながる恐れがあります。
- その装置の運転動作に異常がみられた場合は、直ちに本機の電源を切り、その装置の接続を外して、問題を調査してください。
- 使用する機器の定格電力が本機の定格電力を超えていないことを確認してください。

1.3 整備時の安全対策

⚠ 警告

- 皮膚に潤滑油が繰り返し付着すると炎症が発生する恐れがあるため、整備作業後は直ちに洗剤と清潔な水で洗ってください。
- ガソリンの取り扱いは十分注意してください。
- 整備を行う前に、エンジンを切ってください。エンジンを切らずに整備を行うと、深刻な人身傷害や死亡につながる恐れがあります。
- 整備を行う前に、本機を冷却してください。
- 本機をエアブローで清掃する場合は、必ず保護メガネを着用してください。
- 本機を損傷する可能性があるため、高圧洗浄機で清掃しないでください。
- エンジンオイルに触れる際は、ゴム手袋を使用してください。
- 必ず本機を停止してから、オイルゲージを取り外してください。

<注意>

- 始業前点検以外は専門技術者が行ってください。

1.4 その他の安全対策

⚠ 警告

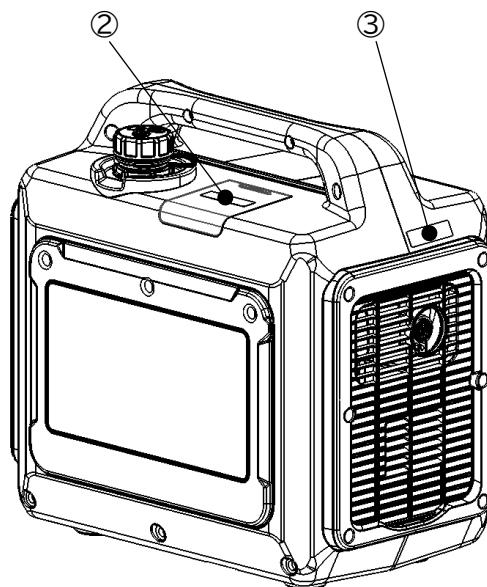
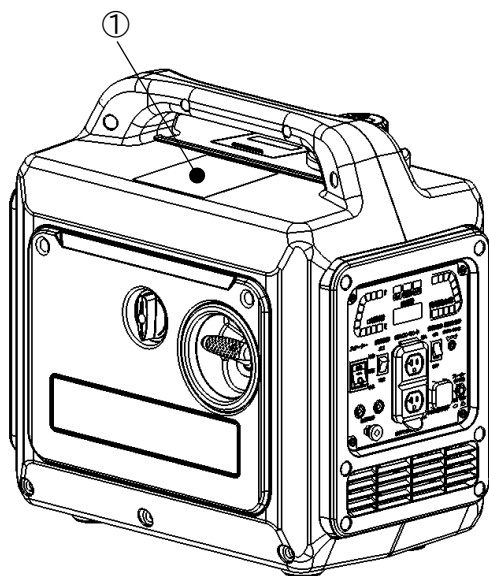
- 本機を屋外に保管している場合は、毎回必ず使用前に、コントロールパネルのすべての電気部品の点検を行ってください。電気部品が濡れていると、感電する恐れがあります。
- 本機の使用中小および使用後は、本機および本機に接続されている延長コードや電源コードが振動による損傷を受けていないか点検してください。損傷した場合は、必要に応じて修理または交換してください。絶縁体の破損やひび割れ、損傷の形跡がみられるプラグやコードは使用しないでください。
- 本機的使用中に、不調、めまい、力が入らないなどの症状が出た場合は、直ちに換気をするか風通しの良い場所に移動してください。また、医師の診察を受けてください。一酸化炭素中毒の可能性があります。

■ 警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。

ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ①排気ガス中毒他 （品番X564-001130）
- ②高電圧 （品番X505-011780）
- ③やけど （品番X505-011790）

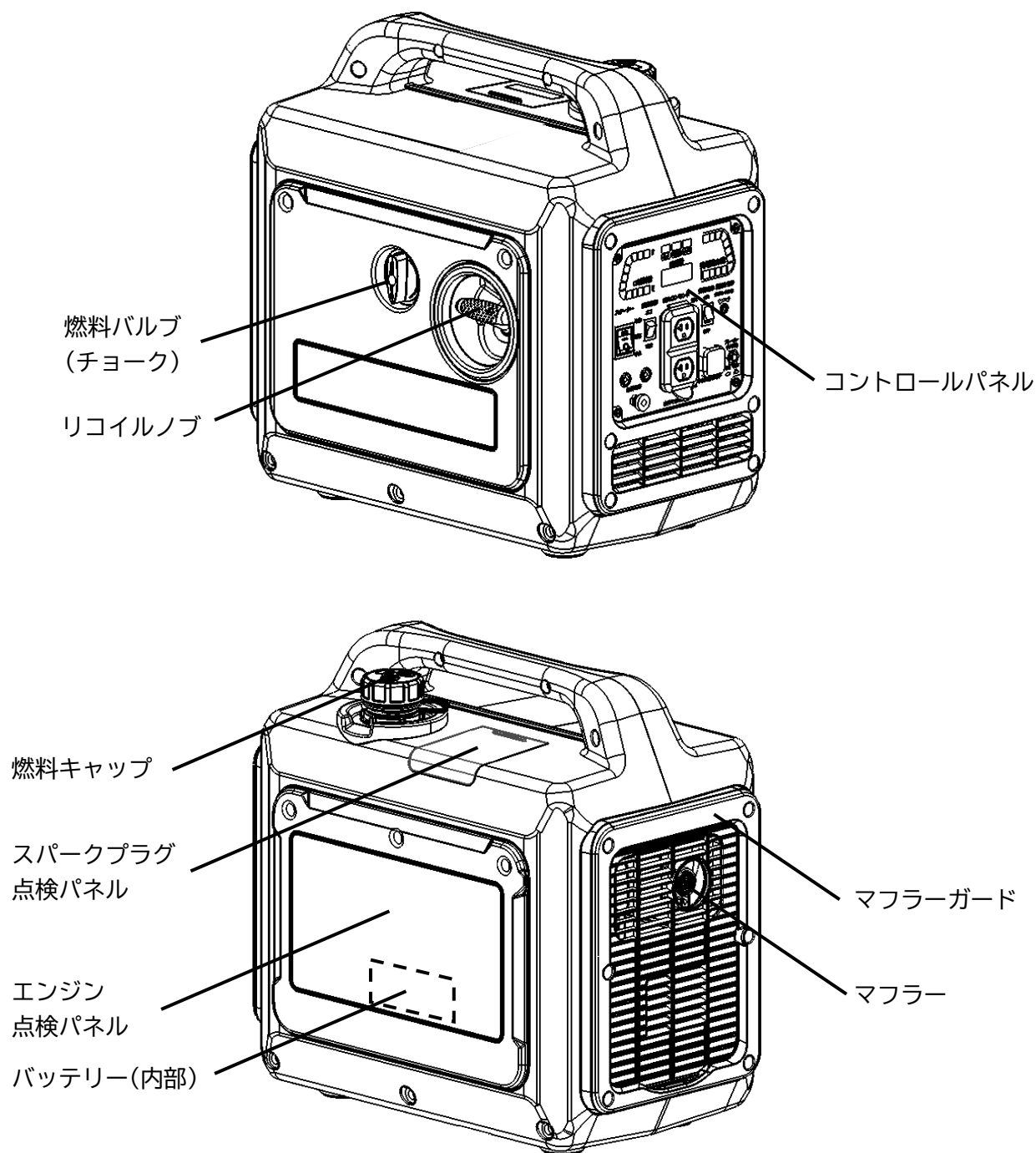


2. 仕様

モデル名		I E G 1 6 0 1 M E
発電機	発電方式	多極回転界磁型
	励磁方式	自己励磁
	電圧調整方式	インバータ方式
	周波数(Hz)	5 0 / 6 0
	相	単相
	定格出力(kVA)	1 . 6
	定格電圧(V)	1 0 0
	定格電流(A)	1 6
	力率	1 . 0
	交流過電流保護	電子式
	直流出力(V-A)	5 - 2 . 1 / 1
	直流過電流保護	直流プロテクター
エンジン	型式	空冷4サイクル OHV 式ガソリンエンジン
	排気量(mL)	8 0
	燃料の種類	無鉛ガソリン
	潤滑油容量(L)	0 . 3 5
	始動方式	セル (電動) ・リコイルスターター式
	オイルセンサー	有
その他の仕様	燃料タンク規定容量(L)	3 . 8
	連続定格運転時間(h)	3 . 8
	外形寸法 L x W x H(mm)	4 8 6 × 3 1 1 × 4 6 2
	乾燥重量(kg)	2 2
	整備重量(kg)	2 5

3. 発電機について

3.1 各部の名称



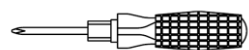
付属品

取扱説明書

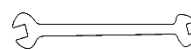
保証書



プラグレンチ

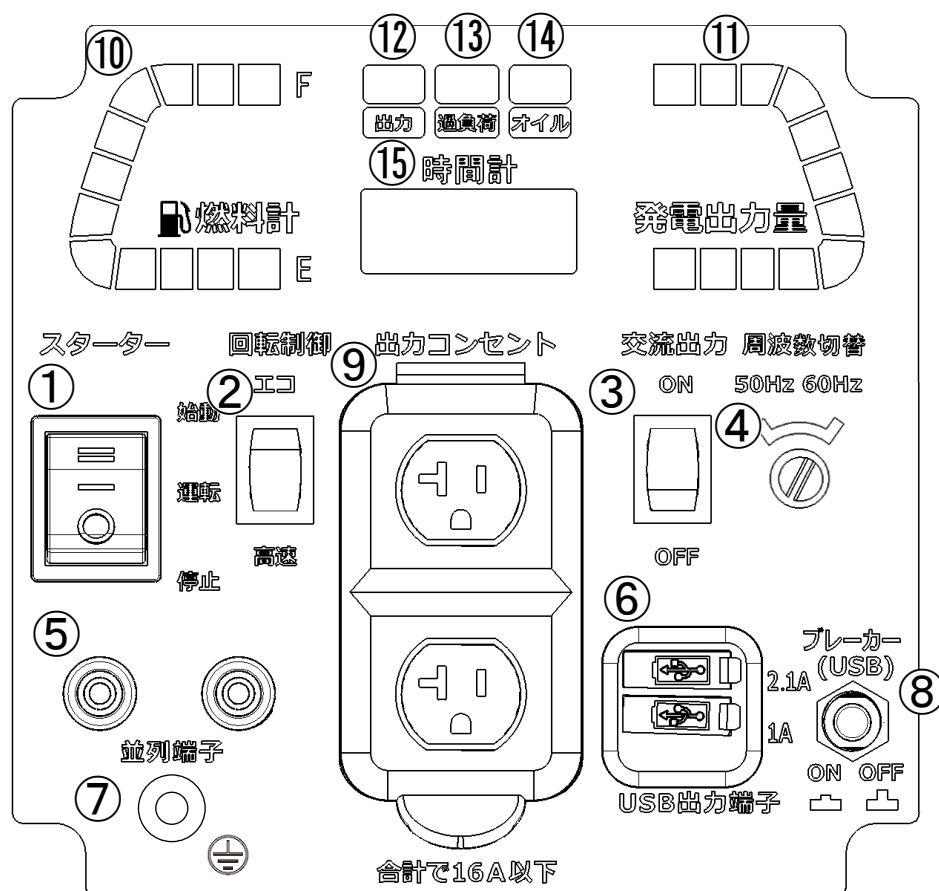


マルチドライバー
(+, -)



スパナ

3.2 コントロールパネル



- ① スタータースイッチ
- ② 回転制御スイッチ
- ③ 交流出力スイッチ
- ④ 周波数切替スイッチ
- ⑤ 並列端子
- ⑥ USB出力端子
- ⑦ アース端子
- ⑧ ブレーカー (USB)

- ⑨ 出力コンセント
- ⑩ 燃料計
- ⑪ 発電出力量ランプ
- ⑫ 発電出力ランプ
- ⑬ 過負荷異常ランプ
- ⑭ オイル異常ランプ
- ⑮ 時間計

3.3 装備

回転制御スイッチ（エコモード）

回転制御スイッチを『エコ』にすると、燃料消費を最小限に抑えることができます。機器の使用を始めると、エンジンは自動的に機器容量の大きさに応じたエンジン回転になり、機器を使用しないときは自動的に低速回転になります。コンプレッサー、投光機等の起動電流が大きい場合は、回転制御スイッチを『高速』にして使用してください。回転制御スイッチを『高速』にすると、機器容量の大きさにかわらずエンジンは高速回転になります。

交流出力スイッチ

交流100V電源の出力と遮断を切替えるスイッチです。このスイッチにはブレーカーのように自動的に出力遮断する機能はありません。交流出力を『ON』にすると発電出力ランプが点灯（緑）し、『OFF』にすると消灯します。

発電出力ランプ／過負荷異常ランプ

正常運転時は、発電出力ランプ（緑）が点灯したままになります。
発電機が過負荷（出力が1,600W超える）になった場合、または接続している装置が短絡した場合、発電出力ランプが消灯し、過負荷異常ランプが点灯します。

オイル異常ランプ

オイル異常ランプは、エンジンオイル量低下によってオイルセンサーが作動すると点灯（赤）し、エンジンが自動停止すると同時に消灯します。

過負荷保護装置

注意：けが

- 過負荷保護装置作動後、エンジンを再始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、交流出力スイッチを『OFF』にしてください。

電流を取り過ぎた場合に、交流出力を遮断させ発電体やインバータを保護する装置です。この保護装置が作動した場合は、過負荷異常ランプが点灯（赤）します。保護装置動作後に、再び交流出力を取り出すには、一旦、エンジンを停止させ再始動を行ってください。

オイルセンサー

注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行う時は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

注意：けが

- オイルセンサー作動確認のためエンジンを再始動するときは、使用機器のスイッチを切り、交流出力スイッチを『OFF』にしてください。

エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

エンジン停止後はオイル異常ランプも消灯するので、オイル不足による停止かどうかの確認はエンジンを再始動させて行ってください。しばらくして、オイル異常ランプが点灯しエンジンが停止する場合は、『4.1 エンジンオイルの補給（P.9）』を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

USB 出力端子

タイプAのソケット（2.1A/1.0A）を装備しています。使用する機器に合わせて接続してください。

ブレーカー（USB）

定格以上の電流が流れると、ブレーカーが自動的に電流を遮断します。

復帰させる場合は使用機器の接続を外し、ブレーカーのボタンを押し込んでONにしてください。

アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

周波数切替スイッチ

周波数を50Hzまたは60Hzのいずれかに切替えるスイッチです。

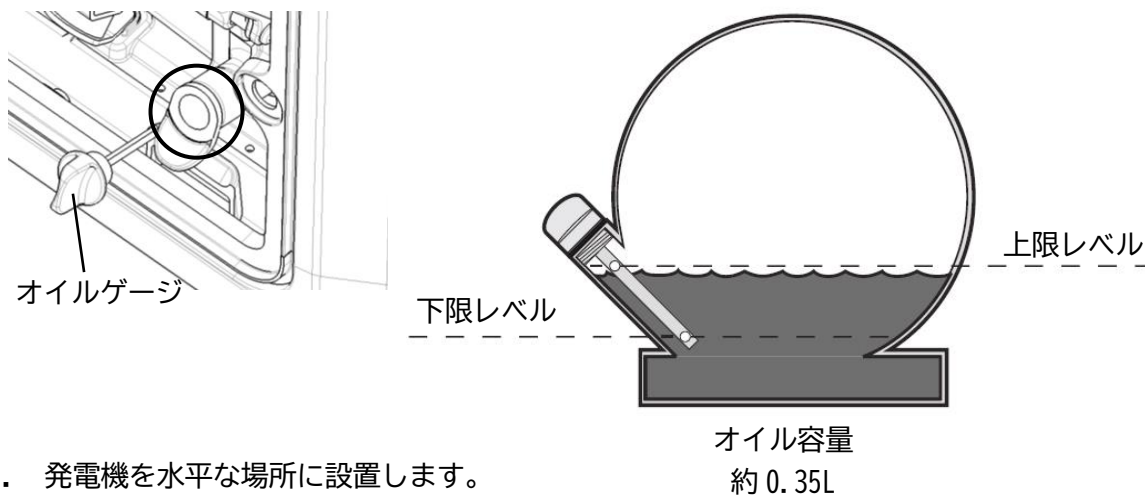
使用機器の周波数に合わせて50Hzまたは60Hzに切替えてください。

<注意>

- 工場出荷時は50Hzにセットされています。60Hz地域では、ご使用前に切り替えてください。

4. 運転前の点検

4.1 エンジンオイルの補給



1. 発電機を水平な場所に設置します。
2. エンジン点検パネルを取り外します。
3. オイルゲージを外し、ゲージ部をふき取ります。
4. 新しいエンジンオイルを約 0.35L 加え、オイルゲージをねじ込まずに挿入します。再度オイルゲージを取り出し、オイル量を確認します。
5. 上限レベルまでオイルを追加します。
6. オイルゲージを再度挿入し、しっかり締めます。
7. エンジン点検パネルを元に戻します。

<注意>

- 本機が傾いた状態ではオイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。

■ エンジンオイルの選定

オイルは外気温に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

<注意>

- オイルの品質は、S E 級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

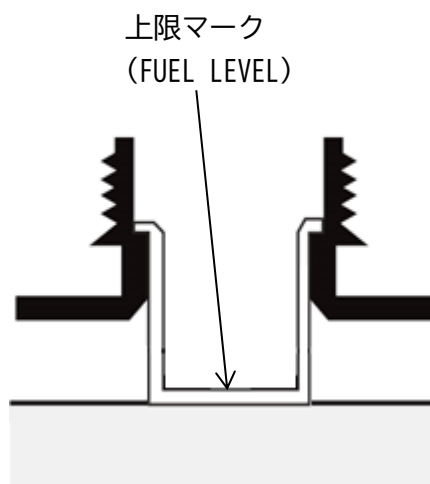
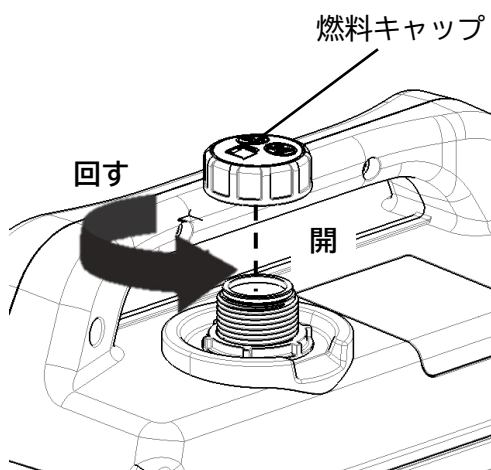
シングル グレード	10W					
	20W					
	#20					
	#30					
マルチ グレード	#40					
	10W-30					
外気温	-10	0	10	20	30	40 ℃

4.2 燃料の補給



警告：火災

- ・燃料の点検や給油は、静電気を除去してから行ってください。
- ・燃料は、上限マーク以上給油しないでください。
- ・燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。



燃料容量：約 3.8L

<注意>

- キャップを閉めるときは、『カチッ』と音がするまで締め付けてください。
- エタノール含有量が10%を超えるガソリンを使用すると、エンジンと燃料系統に損傷を与える可能性がありますので、使用しないでください。
- 燃料は、無鉛ガソリンを使用してください。
- 古くなったガソリンやガソリンとオイルの混合燃料は絶対に使用しないでください。
- 燃料タンクにゴミや水が入らないようにしてください。
- メタノールを含む混合ガソリンを決して使用しないでください。エンジンに重大な損傷を与えることになります。

5. エンジンの始動

⚠ 警告： 排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 警告： 火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて運転しないでください。
- 車両に積載して運転しないでください。

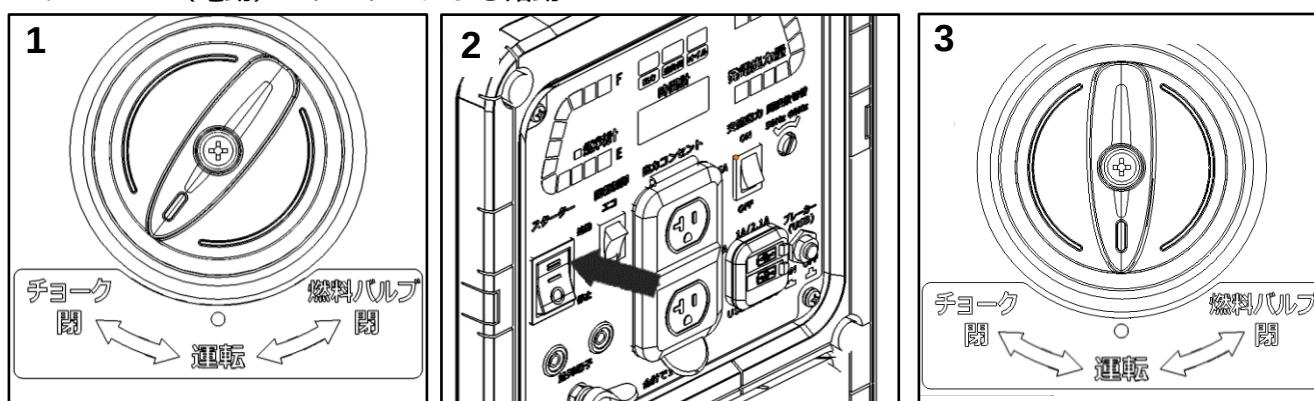
⚠ 注意： 排気ガス中毒

- 排気ガスを通行人や民家などに向けしないでください。

⚠ 注意： けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、交流出力スイッチを『OFF』にしてください。

5.1 セル（電動）スターターによる始動

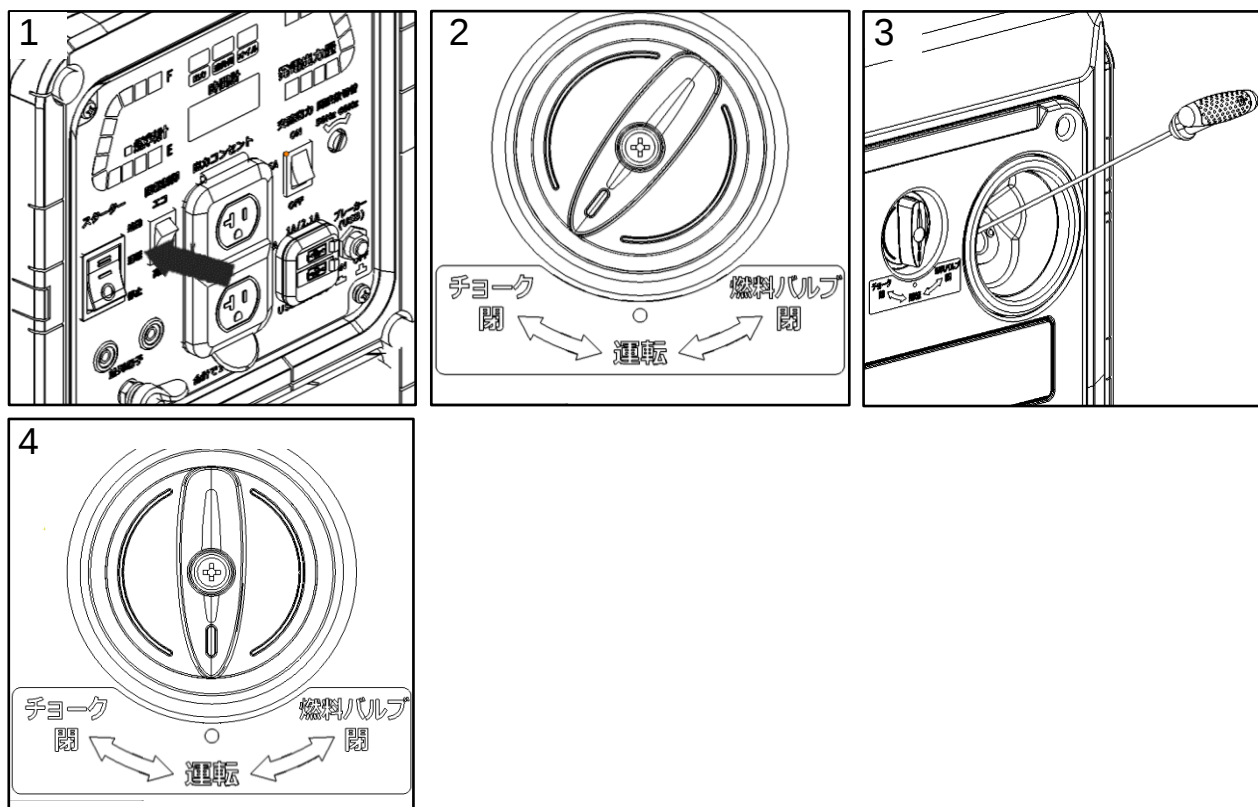


1. エンジンが冷えている場合は、燃料バルブを『チョーク』の位置にします。
2. スタータースイッチの『始動』を長押しします。
3. エンジンが始動したら、燃料バルブを『運転』の位置にします。

<注意>

- エンジンを始動する前に、コンセントからすべての装置の接続を外してください。
- スタータースイッチは15秒以上連続して長押ししないでください。
- スタータースイッチの操作を繰り返すときは、30秒以上操作間隔をあけてください。
- エンジンが温まっている場合や外気温が高いときは、チョーク操作は不要です。『運転』の位置で始動してください。

5.2 リコイルスターターによる始動



1. スタートスイッチを『運転』にします。
2. エンジンが冷えている場合は、燃料バルブを『チョーク』の位置にします。
3. リコイルノブが重くなる場所（圧縮点）までゆっくり引き、一度元に戻して一気に引きます。
4. エンジンが始動したら、燃料バルブを『運転』の位置にします。

<注意>

- エンジンを始動する前に、コンセントからすべての装置の接続を外してください。
- リコイルノブは、跳ね返らないよう、ゆっくり手で戻してください。
- エンジンが温まっている場合や外気温が高いときは、チョーク操作は不要です。
『運転』の位置で始動してください。

6. 発電機の使用



警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。



注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。



注意：火災

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。



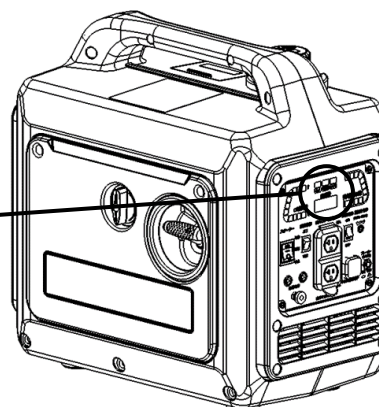
注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の一部の機器には電圧に敏感なものがあります。このような機器を使用するときには、お求めの販売店に相談してください。また、このような機器では、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）等に影響を受けない距離を確保してください。尚、周囲の電気製品がエンジンノイズ等に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・病院に確認のうえご使用ください。
- 本機や機器の操作方法を誤ると故障の原因となりますので、使用時には本機や機器の取扱説明書を熟読してください。

<注意>

- 使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。
- 建物の電気系統に接続しないでください。感電や火災の恐れがあります。
- 全ての出力コンセントから取り出せる電流の合計は最大16Aです。

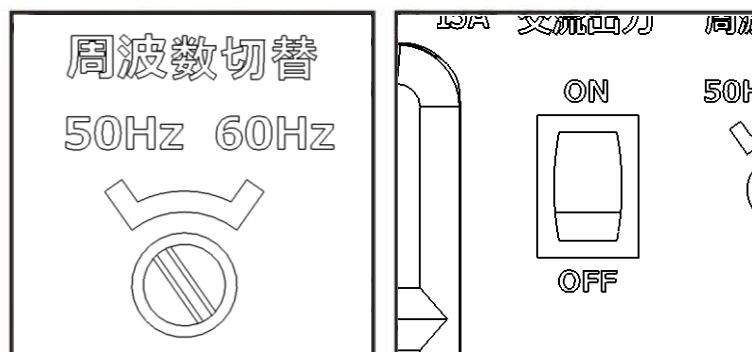
6.1 発電出力、過負荷異常、オイル異常ランプの表示について



運転中のランプ状態

ランプ（点灯）			説明
発電出力ランプ	緑	点灯	正常に発電しています。
		消灯	交流出力スイッチがOFFになっています。
過負荷異常ランプ	赤	点灯	過負荷または接続している機器に問題があります。（すべての機器の接続を外し、再始動してください。）
		消灯	正常に発電しています。
オイル異常ランプ	赤	点灯	エンジンオイルが不足しています。（補給してください。）
		消灯	正常に動作しています。

6.2 交流出力の使用方法



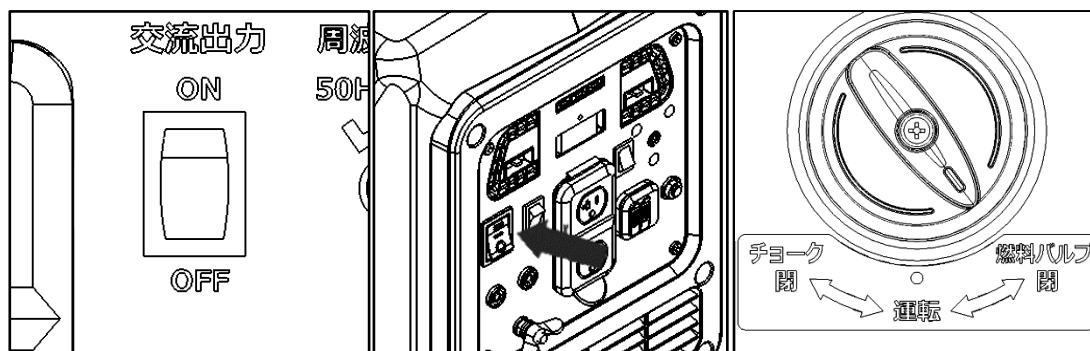
1. エンジン始動前に、周波数切替スイッチを、使用機器に合わせて『50Hz』または『60Hz』にします。
2. エンジンを始動します。
3. 交流出力スイッチを『ON』にします。

以上の操作で、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

<注意>

- 工場出荷時は50Hzにセットされています。
- 全ての出力コンセントから取り出せる電流の合計は、最大16Aです。

7. エンジンの停止



1. 交流出力スイッチを『OFF』にします。
2. 約3分間、冷機運転をします。
3. 運転スイッチを『停止』にします。
4. 燃料バルブを『閉』の位置にします。

<注意>

- 発電機を停止、輸送、保管する際は、燃料バルブが『閉』の位置にあることを確認してください。
- エンジンが止まらないときは、そのまま燃料バルブを『閉』の位置にしてください。数分後に停止します。その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店に修理を申し付けください。

8. 点検・整備

適切な整備を行うことで、発電機を最適な運転状態に保ち、安全、経済的、および無故障の運転が可能になります。摩耗した部品を交換する際は、純正部品以外を使用しないでください。不適切な整備は、発電機の誤作動を引き起こし、重大な傷害につながる恐れがあります。整備に関するご質問は、お求めの販売店までお問い合わせください。

<注意>

- 燃料タンク、燃料ホース、燃料バルブの周辺に燃料漏れがないか確認してください。漏れがある場合は、燃料バルブを『閉』の位置にして、直ちに漏れを修理してください。
- エンジンの作動中に、目視と異音による排気漏れ確認を行ってください。漏れが見つかった場合は、運転を続ける前に修理してください。
- 汚れやゴミがないか確認し、必要に応じて清掃してください。
- エンジンオイル量を確認し、必要に応じてオイルを補給してください。

8.1 メンテナンスサイクル

次の表に従って、定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 埃の多い場所で使用する場合は、整備の頻度を増やしてください。
- 始業前点検以外は専門技術者が行ってください。
- 交換部品は必ず純正部品を使用してください。
- 表中の●印はお求めの販売店に申し付けてください。

項目		始業前	初回 10 時間目	50 時間 ごと	100 時間 ごと	300 時間 ごと
燃料・オイル漏れの点検		○				
エンジンオイル	オイル量の 点検	○				
	交換		○*		○**	
エアクリナー	点検	○				
	清掃			○		
燃料フィルター	清掃			○		
スパークプラグ	点検・清掃				○	
	交換					○
バルブ クリアランス	点検・調整					●
燃焼室	点検・調整					●
燃料タンク	清掃					●
燃料配管	点検	● 1 年ごと				
	交換	● 2 年ごと				

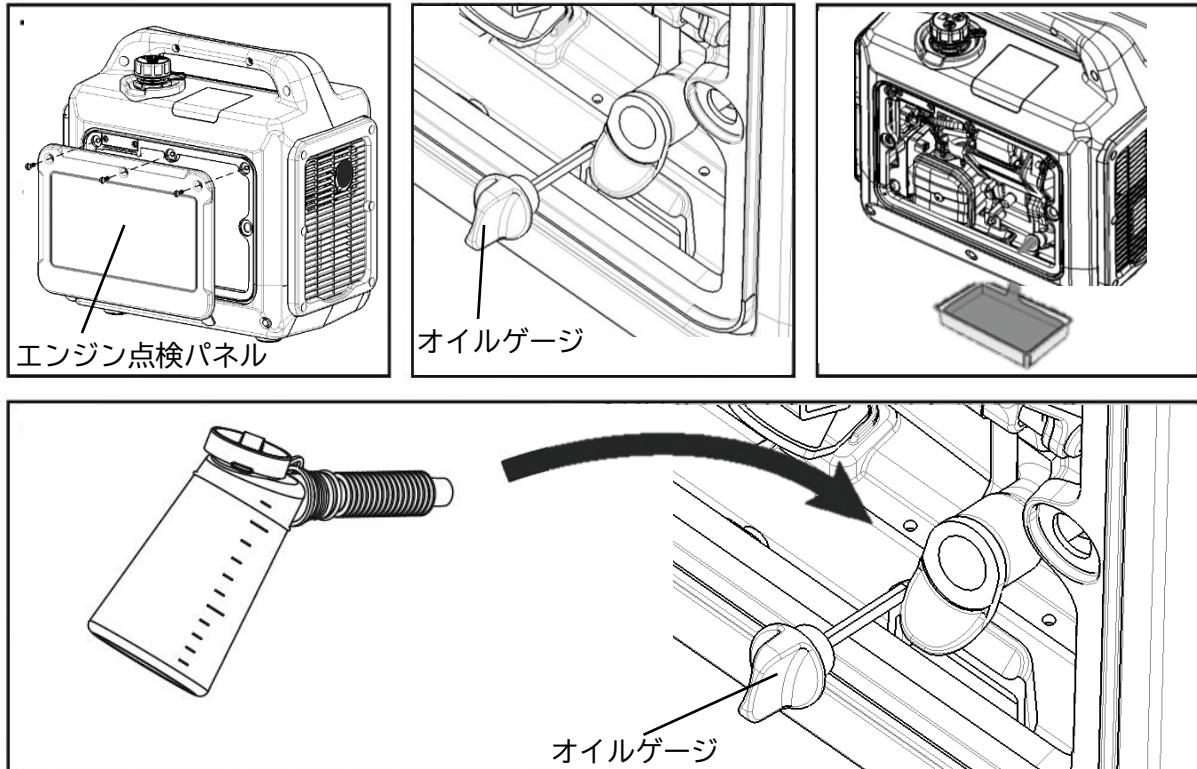
* 発電機の初回使用時。

** エンジンオイルは100時間ごと、または1年ごとのいずれか早いタイミングで交換してください。

8.2 オイル交換

<注意>

- 廃液は地面に垂れ流さないよう容器に受けてください。廃棄するときは、産業廃棄物として関連法令に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。



1. 3本のスクリューをゆるめて、エンジン点検パネルを取り外します。つまみからパネル全体を取り外します。
2. オイル排出口の下に受け皿を置きます。
3. オイルゲージをゆるめて外し、エンジンオイルを抜きます。
4. 新しいエンジンオイルを約 0.35L 加え、オイルゲージをねじ込まずに挿入します。再度オイルゲージを取り出し、オイル量を確認します。
5. 上限レベルまでオイルを追加します。
6. オイルゲージを再度挿入し、しっかり締めます。エンジン点検パネルとスクリューを元に戻します。

<注意>

- 一般的な使用には、SAE 10W-30または5W-30をお勧めします。(P.10参照)
- オイルを入れすぎないでください。

8.3 エアクリーナーの清掃

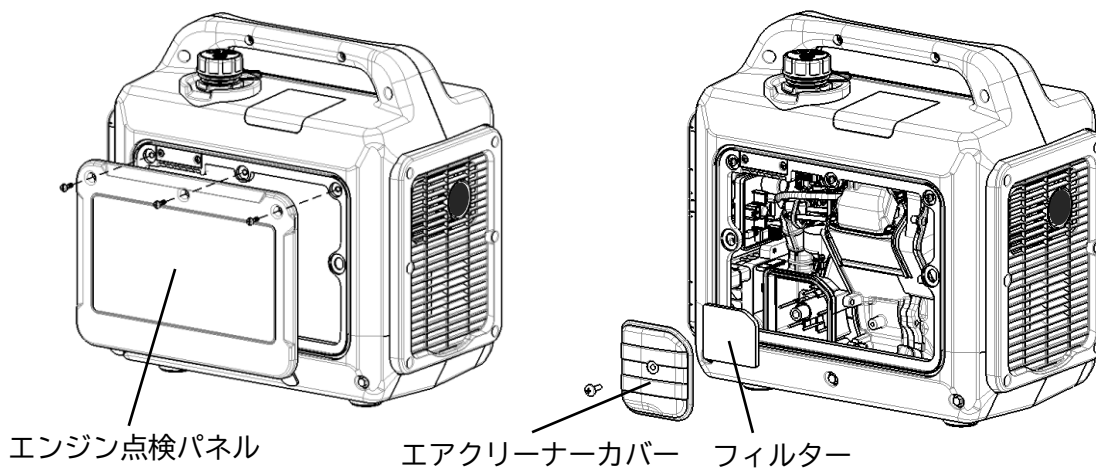


警告

- ガソリンやその他の可燃性溶剤を使用すると、火災や爆発を引き起こす恐れがあります。
- エアクリーナーを装着していない状態で本製品を運転しないでください。
- エアクリーナーが汚れていると、エンジン不調の原因となります。特に埃の多い場所では、定期的にエアクリーナーの清掃と整備を行ってください。

<注意>

- 絶対にエアクリーナーを装着していない状態で発電機を運転しないでください。この状態で運転するとエンジンが破損する原因となります。



1. スクリューをゆるめて外し、エンジン点検パネルを取り外します。
2. スクリューをゆるめて外し、エアクリーナーカバーを取り外します。
3. フィルターを取り外します。
4. フィルターが汚れた場合は、洗剤または洗油（白灯油）で洗浄し、十分に乾燥させます。
5. きれいなエンジンオイルにフィルターを浸し、滴下しない程度に軽く絞ります。
6. エアクリーナーカバーの汚れを拭き取り、逆の手順で取り付けます。

8.4 スパークプラグの整備

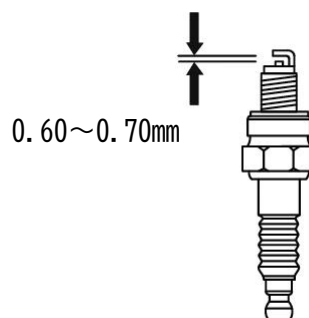
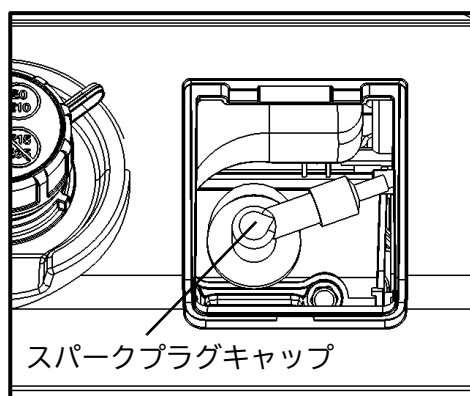
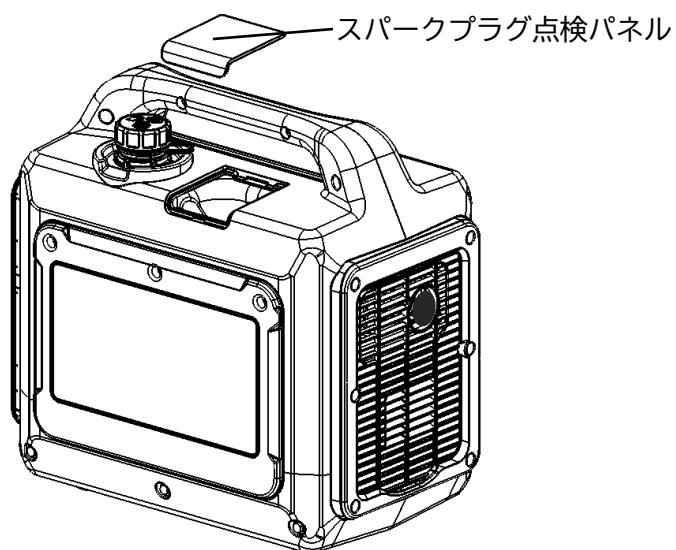


注意：やけど

- エンジン停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから整備を行ってください。

<注意>

- スパークプラグはしっかり締めてください。しっかり締められていないとスパークプラグが発熱し、エンジンを損傷する恐れがあります。
- 推奨スパークプラグ：TORCH/A5RTC(NGK/CR5HSB)
- スパークプラグの締め付けトルク：20N・m



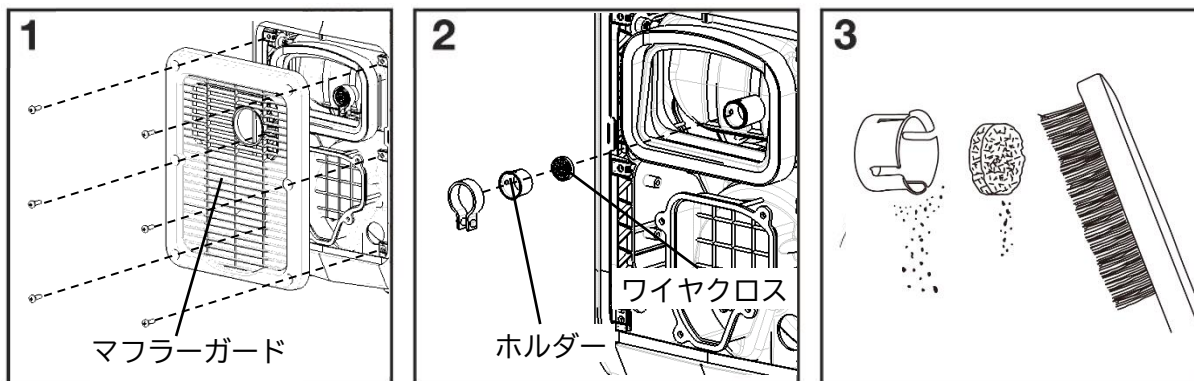
スパークプラグ

1. スパークプラグ点検パネルを取り外します。
2. スパークプラグキャップを取り外します。
3. プラグレンチを使用して、スパークプラグを取り外します。
4. スパークプラグを目視で点検します。絶縁体がひび割れていたり、欠けたりしている場合は、新しいものと交換します。スパークプラグを再利用する場合は、ワイヤーブラシ等で清掃します。
5. すきまゲージでスパークプラグのギャップを測定します。電極すき間を 0.60~0.70mm になるように調整します。
6. スパークプラグを手で慎重に取り付けます。最後にプラグレンチで締め付けトルク 20N・m で締め付けてください。
7. スパークプラグキャップを再度取り付けます。
8. スパークプラグ点検パネルを再度取り付けます。

8.5 ワイヤクロスの整備

⚠ 注意：やけど

- エンジン停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから整備を行ってください。

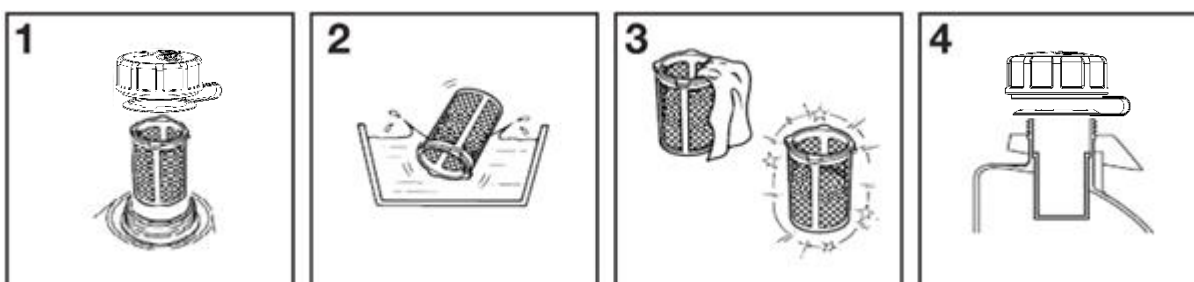


1. 6本のスクリューをゆるめて、マフラーガードを取り外します。
2. ボルトをゆるめて、マフラーからホルダーとワイヤクロスを取り外します。
3. ワイヤブラシを用いて、ホルダーとワイヤクロスの汚れを取り除きます。
4. ホルダーとワイヤクロスをマフラーに取り付けて、ボルトを締め付けます。
5. マフラーガードを再度取り付けます。

8.6 燃料フィルターの整備

⚠ 警告：火災

- 燃料フィルターなどの清掃は、静電気を除去してから行ってください。



1. 燃料キャップとフィルターを取り外します。
2. フィルターをガソリンで洗淨します。
3. フィルターを拭きます。
4. フィルターを再度装着します。

9. 長期保管

⚠ 警告：感電・けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告：火災

- 火気を近づけないでください。
- 燃料の抜き取りや燃料フィルターの清掃などは、静電気を除去してから行ってください。

⚠ 警告：感電・けが

- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから整備を行ってください。

⚠ 警告：感電・けが

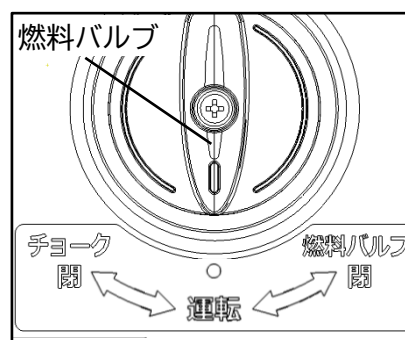
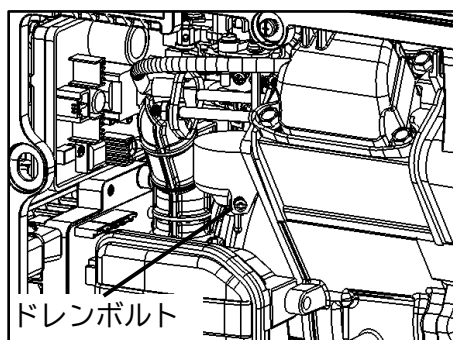
- 保管用カバーなどを掛けるときは、本機が冷えてから行ってください。

<注意>

- キャブレター内にガソリンを入れたまま長期間放置すると、キャブレター内部がつまり、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。
- 燃料を抜くときは、地面に垂れ流さないよう容器に受けてください。抜いた燃料を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

本機を1ヶ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってから保管してください。

1. エンジンを停止し、燃料キャップと燃料キャップの下にあるフィルターを取り外します。
2. 燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
3. 燃料バルブを『運転』の位置にして、キャブレターのドレンボルトをゆるめてキャブレター内部のガソリンを全て抜きます。
4. キャブレターのドレンボルトを締め付け、燃料バルブを『閉』の位置にします。
5. エンジンオイルを交換します。(『8.2 オイル交換 (P. 17)』の項を参照)
6. スパークプラグを外し、その穴からエンジンオイルを約 5mL 注入します。(『8.4 スパークプラグの整備 (P. 19)』の項を参照)
7. リコイルノブをゆっくり数回引きます。
8. スパークプラグを締め付けます。
9. リコイルノブを重くなるまでゆっくり引き、元にもどします。
10. エアクリーナーを清掃します。(『8.3 エアクリーナーの清掃 (P. 18)』の項を参照)
11. 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。



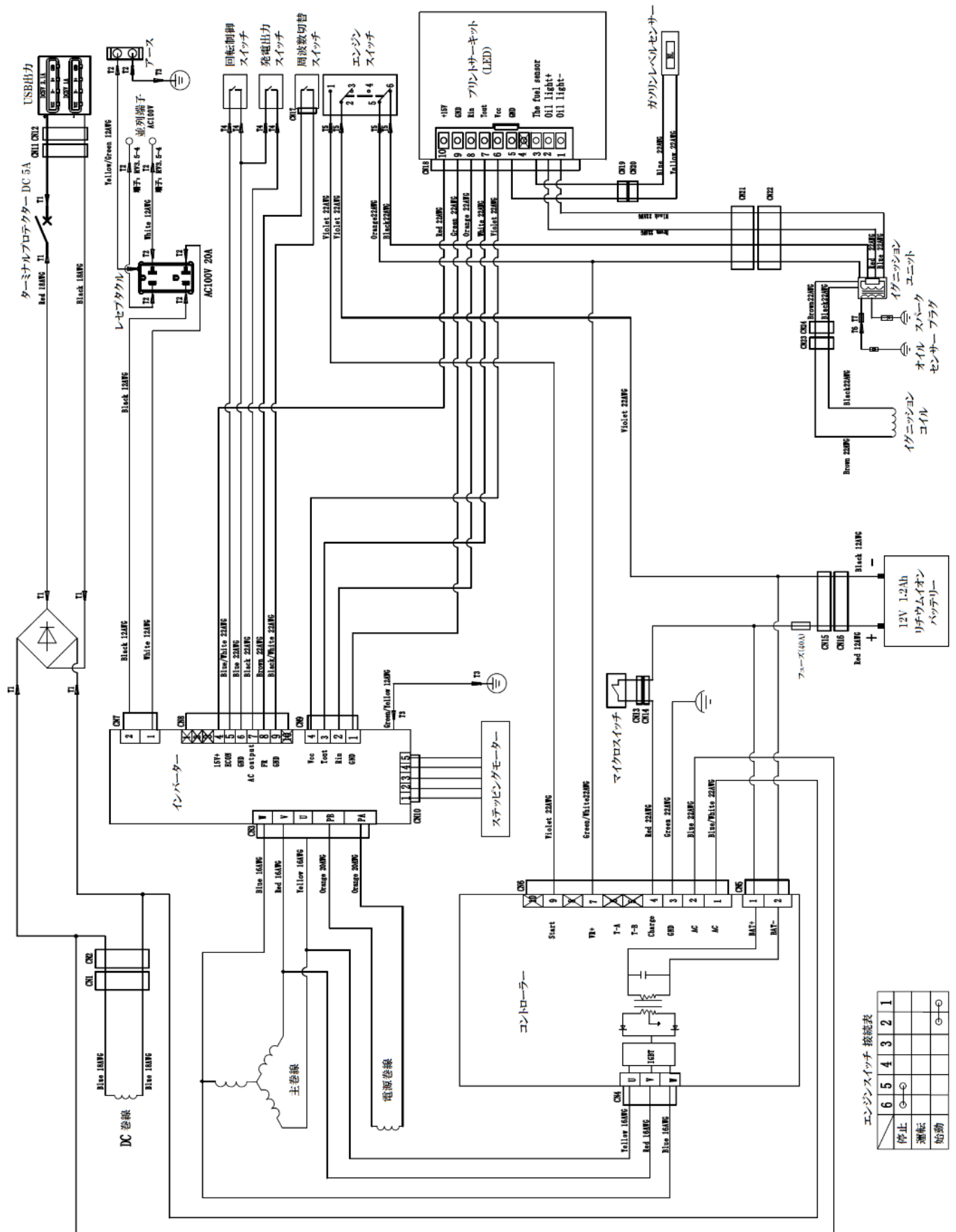
10.トラブルシューティング

発電機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。点検しても正常にならないときは、お求めの販売店に修理を申しつけてください。

症 状	推 定 原 因	処 置
セル(電動)スターターが起動しない	1. バッテリーのあがり 2. バッテリーの劣化	1. リコイルスターターで始動する(運転中は充電されます) 2. バッテリーを交換する*
エンジンが始動しない	1. 燃料バルブ『閉』 2. 燃料の不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料バルブを『運転』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・キャブレター・内部の水抜きと清掃
始動するがすぐ停止する	1. オイルセンサー作動	1. オイルを給油
交流 100V 出力が出ない	1. 交流出力スイッチが『OFF』 2. 過負荷異常ランプが点灯	1. スイッチを『ON』にする 2. エンジンを再始動する
交流 100V 出力が弱い	1. 周波数が異なる 2. 使用機器の電流が定格を超えている	1. 機器の指定周波数に合わせる 2. 『使用できる機器の容量』を参考に調整する
エコ機能が作動しない	1. 回転制御スイッチが『高速』	1. スイッチを『エコ』にする

*バッテリーを交換するときは、お求めの販売店にご相談ください。

11. 回路図



[illegible]

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2

Tel 0120-176-181（製品・技術的なお問い合わせ）

受付時間：弊社営業日 9:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2

Tel 0428-32-1005（代）

北海道支社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20

Tel 011-891-2249（代）

東北支社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50

Tel 022-288-0511（代）

東日本支社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2

Tel 0428-32-1091（代）

中部支社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39

Tel 052-502-4111（代）

西日本支社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田 566-159

Tel 086-296-5911（代）

九州支社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7

Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。